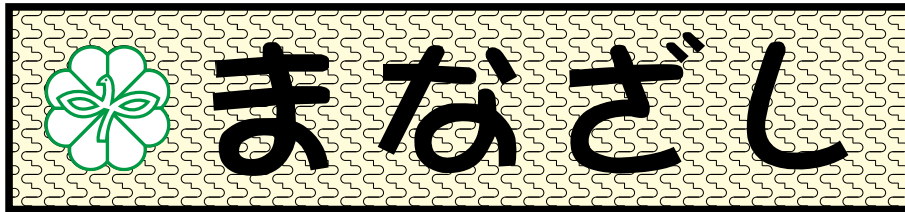




秦野市社会福祉協
議会のHPから閲
覧できます



第 101 号
秦野市民生委員児童委員協議会
発行人 熊澤道子
編集 広報部
連絡先
〒257-0054
秦野市緑町 16 番 3 号
Tel. 0463 (84) 7711



秦野市長 高橋 昌和

まなざし第101号発行
「さらなるスタート」に向けて

はだの民児協だより「まなざし」が第101号の発行を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

民生委員・児童委員の皆様には、常に住民に寄り添い、身近な相談相手として、また、地域福祉活動の要として、多大なご貢献をいただいておりますことに、心から感謝いたします。

さて、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう中、その影響は政治、経済、社会などあらゆる分野に及び、私たちの生活に大きな影響を与えています。

福祉分野では、高齢者の社会的孤立、DVや子どもの虐待増加などが懸念されています。民児委員活動においては、人と人との接触を避けるため、電話やポスティングなどを活用しながら、感染予防との両立に取り組んでいただいているところです。

こうした中、本市では、すべての人が社会の一員として互いに尊重され、共に支え合うことで住み慣れた地域で豊かで安心な暮らしの実現に向けて、令和2年4月に地域共生支援センターを新たに設置しました。

加えて、8050問題やダブルケアなど複合的な地域生活課題に対応するため、関係機関との連携による包括的な相談支援を行うとともに、地域に暮らす方々の「生きる」を支える活動をされてきた民生委員・児童委員の皆様のご協力をいただきながら、地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

結びに、秦野市民生委員児童委員協議会のみましますの発展ならびに皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

各地区民児協会長(12地区)からのメッセージ

秦野市民生委員・児童委員協議会会長
本町地区民児協会長

熊澤道子



秦野市民生委員・児童委員協議会の広報誌「まなざし」は、昭和62年に創刊され101号を迎えることができました。

長年にわたる関係各位のご支援と今日の基礎を築かれました諸先輩に深く感謝を申し上げます。

近年、地域における福祉課題も、社会情勢の変化等から複雑・多様化しておりますが、常に住民に寄り添い、身近な相談相手となり、つなぎ役となって共に支えあう安心な地域共生社会の実現に向けて、引き続き、活動を推進してまいりたいと思います。

また、新型コロナウイルスの影響が長引くなか、思いどおりに活動ができない日々ではありますが、これまで紡いだ「心と心のつながり」は、途切れることがないように、全委員が心を合わせて、この困難を乗り越えてまいりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしく願います。

南地区民児協会長

和田房枝



南地区民生委員・児童委員協議会は25名（主任児童委員2名を含む）が、南小学校・中学校区をエリアとして活動しています。

近年、秦野駅南側の宅地造成等が進んだことによって、若い世代の居住が市内で一番多い地域です。（高齢化率：26.35% 令和2年10月1日現在）

従いまして、これからも高齢世帯から子育て世帯等すべての方々の身近な相談相手・見守り役として「みんなのしあわせ」のために支援活動を全員が協力して行っています。



東地区民児協会長

猪股登美子



「こんにちは、おかわりありませんか」のあいさつで始まる高齢者宅への訪問。時には、近くの方も加わり、ひとときのふれあいと憩いの場となります。

日ごろから、民児委員が地域の方々と連携し、相談相手や見回り役として、住民を支援することにより、共に支え合う関係が生まれると感じています。

これからも、地域の方とのつながりを大切に、委員全員が協力しあい、活動していきたいと思えます。

北地区民児協会長

廣川士朗



北地区では、定員18名（1名欠員）で高齢者の方々への見守り活動や様々な援助活動を行っております。

本年度の新任民児委員の方々におかれましては、任命委嘱直後の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、予定していた様々な研修会の中止を余儀なくされ、識見などの習得がままならない環境にあります。

見守り活動中にはいろいろな難題に遭遇しつつも、北地区内民児委員全員で意見交換を行い、方向性を見極めながら活動頂いております。

大根地区民児協会長

中志陽一



民児委員に就任して、高齢者の人達には道標を与えて頂き、子どもたちを孫と重ね見て無事と健康を願う。

何と言っても素晴らしいのはこの仲間に出会ったこと。こんな事を思うのは、仲間を支えられ長く活動を続けられたおかげだと思えます。

長く続けることで良かったと思える事がたくさんできる。

さあ、まだまだ、これからだよ！

西地区民児協会長

添野幹子



皆さんは、何を考えて民児協活動をしていますか。私は、「民児委員とはどうあるべきか」を常に自問自答するようにしています。

また、西民児協24名で協力し合い、社会環境の変化に柔軟に対応していけたら、と考えています。

地域の中では出合いを大切に、謙虚にそっと寄り添い、耳を傾け、さらに受け身にならない支援を心がけていきたいと思えます。それがきっと、自分自身のためでもあると信じています。

洪沢地区民児協会長

石川義雄



洪沢地区の現状は、少子高齢化の進展により地域社会の暮らしに大きな影響を与えています。

当民児協では「みんなで支えあい、安心して暮らせる地域づくり」を目標に掲げ、その一環として3年前から子育て・高齢者サロンを立ち上げ、地域との交流を図っております。

令和2年度は、①子育て・高齢者サロンの充実 ②民児委員間の相互補完体制の確立 ③地区の「防災福祉マップの作成」を重点課題にその実践に取り組んでいますが、コロナ禍の影響で活動に支障が生じております。

今後も全員一丸となって地域福祉向上に貢献していきたい。

末広地区民児協会長

水流嘉津子



末広地区は、23名の委員で、地域で暮らす方々に声をかけ、見守り活動を行っております。

地区活動として、児童の下校時の見守り活動や長期休みに地区のパトロール活動を行っております。高齢者を対象にサロン活動、さわやか体操・健康相談等を展開しております。

現在は、今まで通りの活動ができない日々が続いており、どのようにすれば地域の方の気持ちに寄り添うことが出来るのかを話し、支え合いの輪を広げていきたいです。

南が丘地区民児協会長

須永克子



相談を受けた時、相手の方がほっとしたり、笑顔が浮かんだりすると、私も幸せになります。

相手の様子に添って真剣に一緒に考え、どうしたいのかを気付いていただく。難しいけれど教えていただくことが多く、私が生活する中で役立っていることがたくさんあります。

仲間と共に活動でき、多くの方とお会いする機会があり、自分が学ぶ場がたくさんある、民児委員活動を地域のボランティアとして、連携を崩さず、一緒に担いましょう。

広畑地区民児協会長

北村均



私は主任児童委員で子どもの支援専門ですが、地区の様々な行事では、高齢者とも多くふれあいます。

会長になって7年目になります。広畑の委員は全員行事に積極的に参加し、協力的なので助かっています。

現在欠員が出ています。委員の応援でなんとか体制を維持していますが、後任が決まらず、厳しい状況が続いています。知恵を出し合い、行動して下さるメンバーには感謝の気持ちでいっぱいです。

鶴巻地区民児協会長

丸山清江



新型コロナ禍により、いつもとは異なる民児委員活動が進められています。

定例会では、一斉改選から1年が経ち、新任委員の方々にも積極的に話しをしていただくために「一人3分間スピーチ」を毎回5名ずつ始めました。話す内容は何でもかまいません。人前で話すことはとても勇気のいることです。でも一度このようなことを経験することによって、私たちの日ごろの訪問活動にも通ずるところがあると思います。

笑顔で相手の気持ちを思いやりながら身近な相談相手になれるのではないのでしょうか。

堀川地区民児協会長

田村正一



新型コロナ禍で例年行ってきた、福祉関係のイベントが軒並み中止になり、訪問活動が民児委員活動の中心になっています。

感染防止に配慮し、短時間の訪問を行っています。ひとり暮らしの高齢者の方々から、「ご苦労様でした」とか、「ありがとう」等の言葉をいただくと、我々の活動が高齢者の支えの一部になっていると実感し、民児委員をやっていてよかったなと思います。

広報部長、新部員の紹介

- 広報部長 吉本 邦彦 (南が丘)
- 新広報部員 今井 伸江 (大根)



《部長挨拶》

前部長の都合により、部長交替となりました。残り2年の任期となりますが、広報部長として頑張ります。

広報紙「まなざし」は、読んでもらえるような記事編集、読みやすい紙面作りに努めます。

—主任児童委員部の活動報告—

オレンジリボン月間運動

オレンジリボンキャンペーンにご協力、ありがとうございます。

昨年は新型コロナの影響で、「市民の日」が中止となり、オレンジリボンキャンペーン活動ができませんでした。

民児委員の皆様にご書いていただいたメッセージで素敵なツリーが完成、11月の啓発月間中、「保健福祉センター」と「イオン」の2ヶ所で、沢山の皆さんに見ていただきました。



われらの仲間

一緒に活動している仲間を紹介するコーナーです。2回目に紹介するのはこの方です。

早坂茂雄さん (東地区民児協)

早坂さんは2期目です。山形県人会のイベントで山形民謡民舞を通してボランティア活動をしてられます。

中でも山形大黒舞を中心に、秦野市内の福祉施設や、東京で行われます山形の会、そして、地元山形で行われる「大黒舞交流会」などでも披露し年20回くらい舞っているとのこと。

早坂さんに、なぜこの大黒舞を舞うようになったかを聞くと、大黒舞は七福神の大黒様が、五穀豊穡・裕福蓄財・健康長寿などの福を迎え、福を願って、福を叶えて、福を授ける口上を述べ、小槌を持ち、扇を振り舞う姿が優雅だと感じたからだそうです。

<早坂さんの好きな口上>

- 一で、俵をドンと踏んまえて
 - 二で、ニコニコ〜っと笑おうて
 - 四つ、世の中明るく楽しく元気よく
 - 五つ、何時でも心は丸く気は長く
 - 九つ、子どもたち孫たちにデッカイ夢を
 - 十で、当ご主人の無病息災健康長寿
- 〜何時までもお達者で〜



大黒舞の精神と民児委員信条の精神が重なり、高齢者に喜んでいただけるのではと思い、仲間と活動をしているそうです。

稽古は、浅草や山形、市内での出演に合わせて行っているとのこと。昨年は、新型コロナの影響で2度だけの舞台だったと残念がっておられました。

普段ですと、秦野市内の大きな祭典行事(実朝まつり・出雲大社のほおずき市・朝顔市)・浅草・山形等で披露していると話されていました。

これからも、大黒舞でボランティア活動、民児委員としての活動を通して、私たちにたくさんの福と健康長寿、喜びを与えてくれる舞を続けてほしいと思います。



湧水 テレビ放映「在宅クライシス～医療・介護最前線の闘い～」に寄せて 南地区民児協

昨年9月の定例会で、同じ地区の民児委員より、自分が担当している方が取材を受け、NHKBS1で、放映されるとの情報がありません。

そのご家庭は、今泉在住の高齢のご夫婦。ガン末期の妻を80歳代の夫が在宅医療・在宅介護を使いながら自分の家で最期を迎えられた事例です。

番組では、コロナ禍の中、病院から自宅での介護に切り替えることを希望されたことによる、秦野市内の医療チームの努力が紹介されていました。奥さんが痛みのある腕をご主人にさすってもらいながら、気持ちよさそうに眠る様子が映し出されていました。奥さんは手厚い看護の中亡くなりましたが、ご主人が、担当してくださった方々に感謝しておられる様子が印象的でした。

今回の事例は、担当の民児委員が南地区高齢者支援センターに訪問を依頼したことがきっかけとなり、ケアマネージャーによる訪問医療・訪問看護等のサービスを導入し、ご夫婦が希望された在宅での看取りが出来たという理想的な例とも言えます。

テレビ放映にあたって、当民児協から市内の各民児協に情報提供をさせていただいたところ、それぞれの地区の広報委員から各委員へ連絡され、多くの方が視聴しました。

後日、視聴した方から次のような感想をいただきました。

- コロナ禍での訪問看護師、在宅医療チームの苦悩とご活躍の様子がよく分かりました

- それぞれの関係機関の役割を理解すると共に、連携プレイの大切さを知ることが出来ました
- 在宅医の患者やその家族の意思を尊重しつつ、最善の方法を考えて対応されている姿に頭が下がりました
- 民児委員の力は微力ですが、いろいろな方を動かすきっかけとなることが分かりました

この事例を通して、私たち民児委員の小さな働きかけが情報提供等を通して広がり、大きな力になることが分かりました。また、民児委員活動の有意義さや情報共有の在り方等も改めて考えさせられました。



思い出を語るご主人

「まなざし」が市社会福祉協議会の ホームページに掲載!!

「まなざし」の過去3年分を閲覧できます。

右のQRコード、または下記の手順からアクセスしてください。

「秦野市社会福祉協議会」にアクセスする

→「会員情報ページ(リンク集)」をクリック

→画面右の「はだの民児協だより」「まなざし」をクリック

<QRコード>



編集後記

「三密」昨年の流行語大賞に選ばれた言葉です。昨年の2月頃から、「新型コロナウイルス感染症」が国内で蔓延しました。私たちは、感染しないように、できる限り外へは出ない、「自粛する」という行動をとりました。外に出かける時には、マスクを着用。お店のレジに並んだ時には、床に視線を落とし、ソーシャルディスタンスを守り、支払いを済ませる。それぞれの人が自分は感染しない、させてはいけないと「利他心」で、新型コロナが感染拡大しないように取組んできました。

ネットで豊洲市場から、牛肉の三種の部位を取り寄せ、塩とワサビ・胡椒味・それにニンニク味と味付けをかえて食べました。この「コロナ禍」

だからこそ、この安い価格で美味しい食材を取り寄せ、食事を楽しむことができたのだと思います。「なにか得した」と思いながらも、この価格で販売するお店に、同情する気持ちを持ちました。

11都府県に、2度目の緊急事態宣言が出された時は、感染者数が多く、どこへ行っても感染しそうで怖くなってきました。なにせ感染力が強すぎます。新型コロナのワクチン接種を終え、安心して暮らしを取戻し、マスクを取り外し、不安なく外出と外食ができる生活に戻る日が待ち遠しい。

(掘一 憲行)

